

平成19年4月26日

文部科学省高等教育局

大学振興課大学設置室 殿

学校法人 久留米大学

理事長 平山 良明

久留米大学大学院医学研究科個別最適医療系専攻（博士
課程）設置に係る留意事項実施状況報告書の提出について（回答）

平成19年3月1日付依頼がありました標記の件につきましては、当該報告書【1
部】を提出致しますのでご査収下さい。

大学院等設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学院等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 久 留 米 大 学

(2) 大学院名

久 留 米 大 学 大 学 院

(3) 大学本部の位置

福岡県久留米市旭町67番地

(4) 管理運営組織

職 名	認 可 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(みしま しげと) 三 島 重 人 (平成8年6月28日)	(ひらやま よしあき) 平 山 良 明 (平成17年6月28日)	前任者任期満了に伴う変更 ^⑰
学 長	(ひらの みのる) 平 野 実 (平成8年1月1日)	(やくしじ みちあき) 薬師寺 道 明 (平成16年1月1日)	前任者任期満了に伴う変更 ^⑱
研究科長	(こうじろ まさみち) 神 代 正 道 (平成13年4月1日)	(のぐち まさと) 野 口 正 人 (平成19年4月1日)	前任者任期満了に伴う変更 ^⑲

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	認可時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
医学研究科 個別最適医療系専攻(博士課程) 博士(医学)	4年	20人	80人	基礎となる学部名等 医学部医学科

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

報告年度 区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	20人	20人	20人	20人	20人	0.88	
志願者数	26(26)	17(14)	22(22)	16(15)	12(12)		
受験者数	26(26)	17(14)	22(22)	16(15)	12(12)		
合格者数	26(26)	14(14)	22(22)	15(14)	11(11)		
B 入学者数	26(26)	14(14)	22(22)	15(14)	11(11)		
入学定員超過率 B/A	1.3	0.7	1.1	0.75	0.55		

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学年	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備考
1年次	26[0]	14[0]	22[0]	15[0]	11[0]	平成14年度以前入学の内 科系専攻・外科系専攻の留 年学生、在学期間延長者は 含まない。
2年次		25[0]	16[0]	23[0]	17[0]	
3年次			23[0]	14[0]	22[0]	
4年次				22[0]	19[0]	
計	26[0]	39[0]	61[0]	74[0]	69[0]	

(5) - ④ 調査対象研究科等の退学者等の状況

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成16年度	1 [0] 人	3.80%	左記のうち、 平成15年度入学者 1人
	(主な理由)		
平成17年度	2 [0] 人	3.20%	左記のうち、 平成15年度入学者 2人 平成16年度入学者 0人
	(主な理由) 家庭の事情		
平成18年度	0 [0] 人	0%	左記のうち、 平成15年度入学者 0人 平成16年度入学者 0人 平成17年度入学者 0人
	(主な理由)		
平成19年度	0 [0] 人	0%	左記のうち、 平成15年度入学者 0人 平成16年度入学者 0人 平成17年度入学者 0人 平成18年度入学者 0人
	(主な理由)		

2 授業科目の概要

<医学研究科個別最適医療系専攻（博士課程）>

(1) 授業科目表

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備考
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
基礎科目	ゲノムドラフトの解明	1		1		2	1 ②			
	遺伝子多型(SNPs)	1		1		4 ②	1 ①			
	ゲノム創薬の進歩	1		1		1	1			
	プロテオーム/ペプチドーム解析	1		1		2 ②		1 ①		
	免疫関連分子とT細胞抗原レセプター多様性の解明	1		1		3	1	1 ①		
	臨床研究と生命倫理	1		1		3	1			
	科学的根拠に基づく医療(EBM)	1		1		1 4	1 ①	1 ②		
	臨床研究主任研究者養成ユニット	1		2		8				平成19年度科目新設⑱
専攻科目・先端治療学	腫瘍免疫学・癌免疫療法	1~3		②		②	1 ①	②		平成19年度科目廃止⑱
	腫瘍免疫学・癌ワクチン療法	1~3		②		②	1 ①	1 ①		平成19年度科目廃止⑱
	テーラーメイドがん治療	1~3		2		12	1	2		平成19年度科目新設⑱
	癌集学治療学総論	未開講 1~3		2		1		1		平成19年度に履修者がいなかったため⑱
	消化器癌総論	1~3		2		1				
	免疫生物学・細胞性免疫学	未開講 1~3		2		1				平成19年度に履修者がいなかったため⑱
	臨床免疫学	1~3		②		1 ①				平成19年度科目廃止⑱
	肝の発癌機構と治療	1~3		2		1 ①	2 ①	1 ①		
	消化器癌の免疫機構と治療	1~3		2			1			
	細胞性免疫実習	1~3		②		②	②			平成19年度科目廃止⑱
	ニューロオンコロジー	未開講 1~3		2		1				平成19年度科目新設⑱ 平成19年度に履修者がいなかったため⑱
癌ワクチントランスジェネレーション	1~3		②		②	1 ①	②		平成19年度科目廃止⑱	

授業科目の名称			配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備 考
				必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
専 門 科 目	先 端 癌 治 療 学	癌ワクチン症 例検討(トラン スレーショナル スタディ)	1~3		4		2		2		平成19年度科目新設⑱
		癌集学治療学 の実際	1~3		4 2		1	2	1	1	
		消化器癌の遺 伝子解析	1~3		4		1	1	1		
		癌ペプチドワ クチンの基礎 研究	未開講 1~3		4 7		1				平成19年度に履修者がいなかったた め⑱
		肝の発癌機構 の解析法	1~3		2			2	2		
		肝癌治療の基 礎研究実習	1~3		2			1	2 1		
		消化管前癌病 変モデル作製	1~3		2			1	1		
		消化管前癌病 変モデルの免 疫機序の解析 法	1~3		2			1			
	悪性 腫瘍 専門 医養 成コ ース	臨床腫瘍学・基 礎編	未開講 1~3		4		15	1			平成19年度科目新設⑱ 平成19年度に履修者がいなかったた め⑱
		臨床腫瘍学・臨 床編	未開講 1~3		4		28	1			平成19年度科目新設⑱ 平成19年度に履修者がいなかったた め⑱
		悪性腫瘍の集 学的治療の実 習	未開講 2~3		16		4	4	1		平成19年度科目新設⑱ 平成19年度に履修者がいなかったた め⑱
	心 血 管 先 端 医 療 学	血管生物学総 論	1~3		2		2				
		血栓症総論	未開講 1~3		2		1	1	1		平成19年度に履修者がいなかったた め⑱
		循環制御調節 解析学	1~3		2			1			
		循環器分子生 物学	1~3		2			1			
		血管再生医療 総論	1~3		2				1		
心臓血管病外 科治療学総論		1~3		2		1					
冠動脈再建外 科学		1~3		2				1			

授業科目の名称			配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備 考
				必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
専 門 科 目	心 血 管 先 端 医 療 学	末梢血管疾患学総論	1～3		2			1	1		
		小児心疾患の先端医療	1～3		2				1		
		血管平滑筋細胞学	1～3		2		1	≒			
		糖尿病総論	1～3		2				1		
		遺伝子単離法実習	1～3		3			1	2 ≒		
		遺伝子導入実習	1～3		3			2 ≒	1		
		組織遺伝子発現解析法	1～3		3		1	≒	1		
		組織移植実習	1～3		3			1	1		
		内皮前駆細胞標識実習	1～3		3			1	1		
		血小板機能検査実習	1～3		2				1		
		心血管病検査法の実際	1～3		2			1	4		
高 次 脳 疾 患 学	高 次 脳 疾 患 学	情動の神経機構	1～3		2		1				平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱
		中枢神経薬理学	1～3		4		1	≒			
		発達神経学	未開講 1～3		2		1				平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱
		ミトコンドリア脳筋症	未開講 1～3		2		1				平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱
		注意欠陥及び破壊的行動障害	未開講 1～3		2				1		平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱
		中枢神経系放射線診断学	未開講 1～3		4			1	1		平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱
		高次脳機能診断学	1～3		4			1	1		
		脳血管障害治療学	1～3		4		≒	≒	≒		平成 19 年度科目廃止⑱
		脳損傷治療学	未開講 1～3		4		1	1	1		平成 19 年度科目新設⑱ 平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱
		高次脳機能障害治療学	1～3		4		1		1 ≒		
睡眠覚醒障害の病態と治療	未開講 1～3		4		1	≒	2		平成 19 年度に履修者がいなかったため⑱		

授業科目の名称			配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備 考
				必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
専 門 科	高次脳疾患学	機能性精神障害の認知機能	1～3		4		1		1		
		実践的脳虚血 負荷実習	未開講 1～3		2			1			平成19年度に履修者がいなかったため⑱
		中枢神経薬理 学実習	1～3		4		1	1	1		
		中枢神経分子 遺伝学的手技	1～3		4		1	1	1		
		中枢神経系放 射線診断学実 習	1～3		4			1	1		
		機能的脳画像 実習	1～3		4		1		1		
		高次脳機能診 断学実習	1～3		4			1	1		
		認知機能測定 実習	1～3		4		1				
		精神疾患リハビ リテーション実 習	未開講 1～3		2		1	1			平成19年度に履修者がいなかったため⑱
		神経外傷・腫 瘍学実習	1～3		4		1		1		平成19年度科目廃止⑱
神経外傷・脳 腫瘍学実習	未開講 1～3		4		1		2		平成19年度科目新設⑱ 平成19年度に履修者がいなかったため⑱		
先 進 医 療 対 象 疾 患 学	呼吸器疾患学 総論	1～3		4		1					
	感染症医学総 論	1～3		4		2	1	1			
	自己免疫・ア レルギー疾患 学総論	1～3		4		1	1				
	消化器疾患学 総論	未開講 1～3		4		3		2		平成19年度に履修者がいなかったため⑱	
	血液疾患学総 論	1～3		4		2	1				
	内分泌代謝疾 患学総論	未開講 1～3		4		2	1			平成19年度に履修者がいなかったため⑱	
	腎疾患総論	1～3		4		3	1				
	小児外科学総 論	未開講 1～3		4		1	1	1		平成19年度に履修者がいなかったため⑱	
	整形外科学総 論	1～3		4		3	1				

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備 考	
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手		
専 門 科 目	先 進 医 療 対 象 疾 患 学	視覚病態学	未開講 1-3	4		1	2 1	1 2		平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		産婦人科・新生児医学総論	未開講 1-3	4		1	1			平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学総論	未開講 1-3	4		2				平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		包括的顎口腔機能再生学	1~3	4		1	1	1			
		救急医学総論	未開講 1-3	4		1				平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		臨床画像医学・放射線腫瘍学総論	未開講 1-3	4		2				平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		生体機能管理学総論	未開講 1-3	4		1	3 2	1		平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		分子病態学総論	1~3	4		1		2 1			
		遺伝性疾患学総論	未開講 1-3	4		2				平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		再建医学総論	未開講 1-3	4		1	1			平成19年度に履修者がいなかったため⑬	
		呼吸器疾患学実習	1~3	4			1	4			
		感染症医学実習	1~3	4				2	3		
		自己免疫・アレルギー疾患学実習	1~3	4				1			
		消化器疾患学実習	未開講 1-3	4			2 1	4	9 11		平成19年度に履修者がいなかったため⑬
		血液疾患学実習	1~3	4			1			1	
		内分泌代謝疾患学実習	1~3	4			1				
		腎疾患実習	1~3	4			1		4		
		小児外科学実習	未開講 1-3	4			1		1		平成19年度に履修者がいなかったため⑬
		整形外科学実習	1~3	4				1	4 2		
眼科学実習	未開講 1-3	4			1	2 1	1 2		平成19年度に履修者がいなかったため⑬		

授業科目の名称			配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				備 考	
				必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手		
専 門 科 目	先 進 医 療 対 象 疾 患 学	産婦人科・新生児医学実習	未開講 1~3		4				1	7 6		平成19年度に履修者がいなかったため⑱
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学実	未開講 1~3		4				1	3 2		平成19年度に履修者がいなかったため⑱
		包括的顎口腔機能再生学実習	1~3		4		1	1	1			
		救急医学実習	未開講 1~3		4		1	1	2 4			平成19年度に履修者がいなかったため⑱
		臨床画像医学・放射線腫瘍学実習	1~3		4			1	3			
		生体機能管理学実習	1~3		4			1	5 4			
		分子病態学実習	1~3		4			1	3 4			
		遺伝性疾患学実習	未開講 1~3		4		2					平成19年度に履修者がいなかったため⑱
		再建医学実習	1~3		4		1	1	1 2			

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	平成19年4月より、授業科目の見直しに伴い、科目の改廃を実施した。
	100科目			[]	102科目 [+2]	[]	[]	

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留意事項	履行状況	未履行事項についての実施計画
<p>認可時 (平成14年12月19日)</p>	<p>1 文学部国際文化学科の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>入学定員105名であるが、入学者は、平成12年度132名、平成13年度118名、平成14年度170名、平成15年度111名、平成16年度137名、平成17年度119名である。過去6年間の定員超過率は1.25であり、1.3以内に留めている。⑰</p>	
	<p>2 医学研究科内科系専攻、外科系専攻については、平成15年4月1日で学生募集を停止し、在学生の修了を待って廃止すること。</p>	<p>内科系専攻及び外科系専攻学生募集については、平成15年4月1日以降停止した。廃止の件については、新設の個別最適医療系専攻へ在學生に不利益にならないよう移行措置をとった(個別最適医療系設置協議書の「設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由」の中に掲げている)。⑰</p>	

<p>1. ファカルティデベロップメント（授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究）の一層の推進に努めること</p>	<p>本学においては、医学科については昭和52年度から「医学教育ワークショップ」の開催、教員評価制度の導入など、以前から教育研究の改善活動（FD）に取り組んでいるが、本学大学院医学研究科に関しても、①平成18年度に「医学教育ワークショップ大学院部会」の取り組みを既に行い、平成19年4月1日改正の「大学院医学研究科規程」において、「第11章 教育内容等を改善するための研修」を制定している。</p> <p>しかしながら、教員－学生相互の教育・研究活動の改善には、やや不十分であることは歪めない。今回の指摘をうけ、具体的な「ファカルティデベロップメント（授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究）の一層の推進に努める」方策として、大学院医学研究科としても具体的な対応を平成19年4月11日の大学院医学研究科委員会にて検討を行った。</p> <p>その結果、「教員評価制度」実施に向け、早急に検討する必要があることから、平成19年度から「教員評価制度」について具体的な検討を開始するとともに、今年度中に、本格的な教員評価制度の試行として「学生アンケート」等の実施を行い、次期の「医学教育ワークショップ大学院部会」などで「大学院の教育研究活動」の改善に資することとした。</p> <p>なお、具体的な実施案は大学院医学小委員会内で議論し、特に、「授業評価の学生アンケート」については、平成19年度末の実施を目指す。</p> <p>別添資料：関係規程、ワークショップ記録集、大学院医学研究科委員会議事録抜粋。</p>
---	---

2. 専任教員の変更が多数あるので、当初の設置計画の履行に支障が生じないように専任教員を配置すること

医科系大学院が共通する課題として「専任教員の流動化の是正」が挙げられるが、医学部や地域医療を担う大学病院としての役割から、医師(教員)の流動化は避けられないと思慮する。前回の履行状況面接調査においても文部科学省からご指摘を受けたが、上記のような医学部と兼務している大学院専任教員の特殊性が存在するためである。

とはいえ、開講科目の専任教員については不足が生じないように、医学部講座・研究所・センターなどから教育・研究体制に必要な教員について確保し、配置している。現に平成19年度においても個別最適医療系では必要な専任教員を確保している(別添資料参照)。

しかしながら、今指摘がなされたことを受け、平成19年4月11日の大学院医学研究科委員会にて、再度各講座・研究所・センターに対し、大学院専任教員の確保について協力を仰ぎ、今後も引き続き教員の確保及び配置には支障がないよう要請を行った。

別添資料：カリキュラムブック抜粋、大学院医学研究科委員会議事録抜粋。

7 その他全般的事項

<医学研究科個別最適医療系専攻（博士課程）>

(1) 設置計画変更事項 等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① その他</p> <p>「設置する大学院等の概要を記載した書類」 教育研究活動等の状況に関する情報の積極的な提供についての対応 1.医学研究科のインターネットのホームページを開設し、カリキュラム・教育目標・方針等を掲載し、情報の提供を行っている。</p>	<p>① その他について</p> <p>「設置する大学院等の概要を記載した書類」 久留米大学医学研究科のホームページは開設されているが、学生募集を中心とした内容が主で、カリキュラム公開は一部にとどまっているなど、学内外への情報提供という面ではやや遅延している。今後整備に取り組みたい。</p> <p>平成19年度中に大学院医学研究科ホームページリニューアルのための予算を確保しており、今年度中に作業を終了する計画である。</p>

(2) 自己点検・評価等に関する事項

<p>A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>(別紙のとおり)</p> <p>B 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度中の公表を予定している。 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冊子及びCD-ROMを製作し、関係機関へ配布する。 ・ 本学ホームページ上に掲載する。 <p>C 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度に評価機関「大学基準協会」の評価を受審した結果、大学基準に適合していると認定された。
--

(2) 自己評価・点検等に関する事項

○ 個別最適医療系設置の意義・目標

医学と医療を取り巻く環境は大きな変革期を迎える一方、高齢化が進展し、ライフスタイルが変化する中で、がん、脳卒中、高血圧、糖尿病等の「生活習慣病」や高齢化に伴う、いわゆる従来の医療では対応できない「先進医療対象疾患」が増加している。国民の健康と生命を守るためには、これらの疾患の発症機構の研究や、予防および治療技術の高度化が必要であり、とりわけトランスレーショナルリサーチの推進が重要である。これらを通して、新しい治療や予防法を具体化させることが必要となる。本学では、既設の医学研究科博士課程の臨床（内科系・外科系専攻）を改組して「個別最適医療系」（以下、「本専攻」と略）を平成15年度に設置した。特に目標として、「先端的臨床研究を通して、仁智と臨床力豊かな医師を育成すること（社会貢献性）」「ポストゲノム時代にふさわしい個別最適（テーラーメイド型、高いQOLと低いコスト）を創り出し、知識と技術を習得すること」「癌／心疾患／脳血管疾患（本邦三大死因）及び脳精神疾患並びに先進医療対象疾患への探索的臨床研究の実施」「産学官の連携をとおして、産学地域共同研究を推進し、世界の常識と民間の常識が通用する大学の研究組織を作り、その研究教育に活かすこと」を掲げ、この目的を達成するため、本専攻に基礎科目及び専門科目併せて100科目を開設した。専門科目には「先端癌治療学・心血管先端医療学・高次脳疾患学・先進医療対策疾患学」の4つのクラスター（専攻科目）を設け、学生は志望するそのいずれかに属することとした。

完成年度である平成18年度中に、文部科学省よりご指導いただいた点も踏まえ、カリキュラムのあり方を検討し、授業科目の一部の改廃を平成19年度より実施することにより、学生のニーズに沿う改善を行った。また、社会的・国家的な人材養成が急務とされている「がん専門職業人育成」のためのコースを平成18年度中に検討し、「先端癌治療学」の中にコースワークとして平成19年度より設定した。このような改善は、当初の設置の目的をさらに魅力あるものに昇華し、学生の確保、優秀な人材の養成に寄与するものである。

○ 本専攻設置がもたらした効果

本学における先端医学を支える体制として、これまでに以下のセンターの新設や研究所を大学附置へと改組し、この3つ何れもが、文部科学省選定の私立大学学術研究高度化推進事業により研究を行っている。

- ・先端癌治療研究センター（H8～現在 ハイテクリサーチセンター整備事業）
- ・循環器病研究所（H10～現在 学術フロンティア推進事業）
- ・高次脳疾患研究所（H14～現在 オープンリサーチセンター整備事業）

さらに長年にわたり多くの臨床研究の成果を挙げている分子生命科学研究所や各臨床講座において研究活動が活発化している。また、平成15年度より臨床治験をより活性化するため、文部科学省科学技術振興調整費の委託事業として、大学院医学研究科修士課程・博士課程にバイオ統計分野の専攻科目・学群を開設するとともに、平成15年10月からは「バイオ統計センター」を設置し、臨床研究や治験を加速する医学統計やバイオ統計に関するバックアップ体制も確立している。また、既存の特別講義カリキュラムのほかに臨床研究主任研究者養成ユニットの設置などカリキュラムの充実を行った。この結果、本専攻におけるカリキュラムについては当初の目標どおり推移しており、問題なく履行された。このような学内外の教育・研究支援により、本専攻をはじめ、大学院医学研究科学生の教育・研究環境は向上し、相乗効果を挙げているといえる。

これらの体制強化により、本専攻に入学する学生は高いモチベーションを保ち、充実した教育研究環境のもと、学術に専念している。さらに、大学院学生の経済的支援策として「リサーチアシスタント制度」を取り入れており、本専攻の魅力向上につながっている。これらの結果、本専攻設置以降入学者の定員を充足しており、幅広い層の入学者が確保されている。

民間企業との連携組織としては、「久留米大学個別最適医療研究開発産学地域共同機構」を設立し、速やかかつ適切な探索的臨床研究を本学大学病院にて実施している。また、臨床研究全体の管理責任母体としては、学長を長とする「久留米大学臨床試験統括機構」「臨床試験センター」を設置し、その管理下のもとに適切な臨床研究を実施している。また、産学連携を積極的に推進するため、民間企業との共同研究も活発に行われており、その中で本専攻学生の研究の成果が活用されている。

このような本学の教育・研究活動が評価され、福岡県が推進する「福岡県バイオバレー構想」の推進機関として認知されている。これは、バイオテクノロジーを核とした新産業・バイオベンチャーの創出や、関連企業・研究機関の一大集積拠点（バイオクラスター）の形成を目指し、アジア諸国との連携を視野に入れて、推進するもので、地域特有の研究機関として、本学大学院ならびに本専攻が果たすべき人材養成の目的はますます重要となっている。

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (19年10月30日を予定)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (19年10月30日を予定)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)